

まち紹介

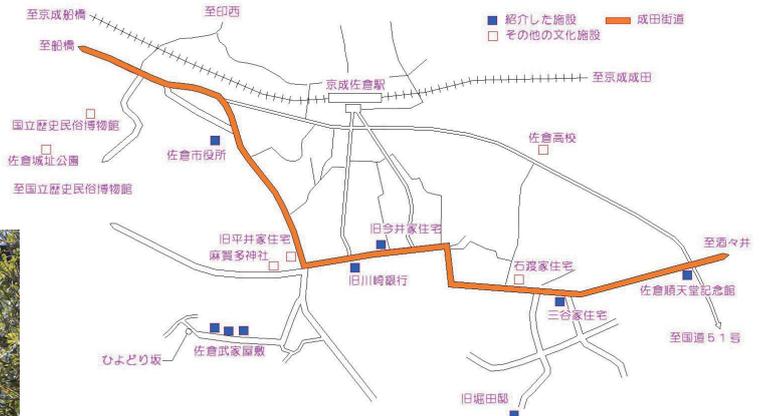
佐倉

佐倉の町並み(旧成田街道)を
たずねる

文・写真

成田支部
橋本 修一

佐倉の町並みを旧成田街道沿いの町並みを探索しながら、たずねてみましょう。佐倉順天堂記念館を基点とし、旧川崎銀行を通り武家屋敷群に続く約2kmの道のりです。途中クランクに曲がる道中を楽しみながら歩いて見ます。



1. 佐倉順天堂記念館について

佐藤泰然先生が開いた蘭医学塾兼診療所です。現在の建物は、1858年(安政5年)に建てられました。泰然先生は外科医術に優れ、困難な手術をこなしていたとされています。玄関奥の診療室には、当時使用されていた医療器具も展示されています。尚現在の順天堂大学の前身である順天堂医院を東京に開いたのは、佐藤泰然氏のあとをついだ弟子の尚仲先生です。記念館の中の診察室や待合室そして各居室を拝見すると当時の診察の状況や泰然先生の生活が、偲べれます。

2. 三谷家の住宅について

佐倉の伝統的な商家として、現存する貴重な建築です。袖蔵は、明治17年に建てられた事が、棟札により確認されており、主家も、その頃には建築されたと考えられています。近代の佐倉における有力商家にふさわしく造形的に優れた建築です。出桁造の主家と並んで袖蔵が建つ当時の商家の形態がよく残っています。赤い外壁が印象的な商家ですね。



3. 旧堀田邸邸宅跡について

佐倉城は、築城から明治に至るまでの258年間に9家20人の大名が封ぜられましたが、そのうち堀田正盛、正信父子の時代と正亮から最後の藩主正倫までの時代を通算すると、141年に渡り、堀田氏の統治下数多くの堀田家関連の文化財が残されています。そのような中で、旧堀田邸は、堀田正倫の邸宅で、1890年(明治23年)に竣工した伝統的和風様式の建築です。明治期の大名邸宅で現存する数少ない貴重な建造物で、2006年には、国の重要文化財に指定されました。奥座敷の書院造りの居室は、重厚感を感じられ、鴨居の釘隠し一つ見ても当時の威勢を感じられます。更に中庭を周回するように配置された長い縁側を歩くと、心地よい日差しが降り注ぎます。また、庭園も「さくら庭園」として市民に親しまれており、国の名勝にもなっています。

